



松坂屋銀座店の歴史

平成25年6月1日(土)→8月27日(火)

松坂屋銀座店は、関東大震災の翌年、大正13(1924)年に銀座初の百貨店として、現在地に開業した。

百貨店の大衆化を決定づけたといわれる土足入場、ファッションと機能性を先取りした制服の完全洋装化、モータリゼーションの進展を見越してのエレベーター式パーキングビルの建設……。これらはいずれも銀座店が先鞭をつけたものである。

増改築を重ねた外観は、街の景観づくりのみならず、都市の近代化を示すランドマークとしての役目も担ってきた。

そして本年6月30日、「銀座六丁目10地区における都市再生特別地区の都市計画」に基づき、いったん営業を終了する(3、4年後を目途に大型の複合商業施設として生まれ変わる予定)。

銀座初の百貨店を開設

松坂屋銀座店は、「関東大震災」後の復興の先陣を切って、大正13(1924)年に開店した。宿願であった都心・銀座への進出は、大正11(1922)年、国光生命保険(現、第一生命)からのビル賃貸申し入れを機に出店が具体化した。大正13年春の開店を目標に工事を進め、途中関東大震災による中断はあったものの、暮れの12月1日、開店にこぎつけた。銀座初の百貨店、そして同一の都市に複数の店舗を構えた最初の百貨店としても特筆される。



松坂屋銀座店

百貨店初の土足入場を断行

開店にあたり、全館を土足入場に踏み切った。誰もが自由に立ち寄れる店舗として、百貨店の大衆化が一気に進んだといわれるほど画期的な出来事で、以後、各社が追随した。

銀ブラのときにモボ(モダンボーイ)、モガ(モダンガール)が必ず一度は店内を覗くという新名所のひとつになったといわれる。



土足入場

動物園を開設

晴れた日には東京湾のみならず房総半島まで遠望できた屋上に、大正14(1925)年5月、百貨店初の動物園を開設した。銀座のご真ん中、しかも高層ビルの屋上で猛獣を飼っていることで評判になり、「夜の銀座に獅子の声」などと新聞にも書かたてられた。



動物園開園の新聞広告

制服の完全洋装化

斬新な百貨店づくりを目指した松坂屋は、昭和4(1929)年、他社に先駆けて、エレベーターの乗員に洋装の女性を採用した。

制服の完全洋装化でも松坂屋が先行した。昭和8(1933)年7月、銀座店は呉服売場以外の制服を、洋服に切り替えたのである。



完全洋装化





「星の食堂」「お好み食堂」を開設

昭和5(1930)年3月、天ぷら、寿司、トンカツ等、第一級の職人を集めた「お好み食堂」を、百貨店で初めて開設した。

昭和10(1935)年7月には、日本で初めてのオープン設備を誇る「星の食堂」を設けた。眺望・絶景の窓を通してお台場越しの潮風が流れ込むという、絶好のスポットとして人気を呼んだ。



星の食堂

PR誌『新装』を創刊

昭和10(1935)年6月、イメージアップと情報発信を目的に、PR誌『新装』を創刊した。20~30頁前後の潇洒な冊子で、紙質・印刷・デザインともにすぐれ、また充実した内容により、PR誌の代表とみなされた。「銀ブラ」のための情報誌の機能も持っていた。



『新装』創刊号

空襲で壊滅的な被害

昭和20(1945)年5月25日夜の米軍による絨毯爆撃で、銀座店は地下1階・1階・8階を残して焼失するという壊滅的な状態に陥った。

同年11月、銀座店はGHQ(連合国軍総司令部)の命令で、地下1階にダンスホール・キャバレー「オアシス・オブ・ギンザ」をオープンした。



「オアシス・オブ・ギンザ」

「松坂屋のテーマ音楽」を制定

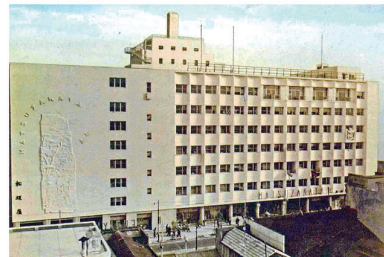
民放が始まった昭和26(1951)年、創業340年記念事業の一環として、ラジオの提供番組で流す「松坂屋のテーマ音楽」を公募。応募500余の中から芥川也寸志の曲が入選に輝いた。芥川は「普遍性を備え、世界性を持った日本の旋律を創り出した」と自賛した。



昭和26年のポスター

戦後の増改築

戦後の復旧工事が進み、戦前の状態に復した頃、新たな増改築計画がスタートした。工事は昭和26(1951)年5月から始まり、翌27年11月に竣工した。旧館にはギリシャ神話をモチーフにした女神のレリーフを施し、新館には曲面の窓を羅列して、銀座中央通りに相応しいモダンな外装を創りあげた。



昭和27年の銀座店

パーキングビルを開設

モータリゼーションに先駆け、昭和38(1963)年6月、収容能力300台というマンモス駐車ビル「銀座パーキングビル」を開設した。アメリカから買入れたわが国初のパウザー方式というエレベーター式駐車ビルで、百貨店に付属した駐車場では最大のスケールを誇った。



銀座パーキングビル

「ロイヤル銀座松坂屋」の誕生

昭和39(1964)年9月、建物の3分の1を占めていた旧館部分を建て直し、改築をしない新館の部分も、壁面だけは新しい建物と同じデザインで統一した。信楽焼の壁面が新橋側からは緑、銀座四丁目からはベージュに見える建物として注目を集めた。フランス製のガラスを用いたショーウィンドーは、日本一の大きさであった。



昭和39年のポスター

外観を一新

平成8(1996)年9月、銀座店は32年ぶりに外装を一新した。ラベンダー色を基調とした、銀座の歴史的な碁盤目状の街路を粋な江戸文様と斬新な格子模様で表現した外観は、夏は涼しげに、冬は暖かみをもたらすと、好評を博した。



平成8年の銀座店



電話(052)251-1111 www.matsuzakaya.co.jp

【営業時間】本館地下2階~3階、南館地下2階~4階、北館1階は10時~20時 その他のフロアは10時~19時30分 ただし、本館9・10階、南館6・7・10階、北館地下1階で営業時間が異なる店舗もございます。